

# 教育

## 私塾・寺小屋

天草における教育は、明治初期までもっぱら私塾や寺小屋で行なわれていたと思われる。宝暦10年（1760）御領に私塾「正論社」が開塾される。

文政元年～文久3年（1818～1863）吉田佐太一東壁によって栖本河内村に私塾「學半舎」が開塾され、45年間に80名が学んでいる。

天保年間に高野山流人の定舜上人が河浦一町田で「臨川塾」を開塾。

天保元年（1830）～明治7年（1874）町山口で平方権之助が「徳田屋塾」開塾した。文久3年（1863）竹添筍園が町山口村に「誠文堂」を開塾した。慶応3年（1867）長崎の漢詩人谷口藍田が本戸馬場村明德寺内に文学塾を開く。

また、天保10年（1839）下河内村の酒井順吾は青雲の志に燃え、日田の広瀬淡窓が開く「咸宣園」へ遊学している。

本村では、安政4年～文久3年（1856～1863）大矢野上村の竹添順左衛門筍園によって東向寺境内に私塾「聴松堂」が開塾され、6年間に生徒70名が学んだ。これが本村（現在、本町）での学校教育の始まりである。

## 明治時代の学校教育

明治5年（1872）学制頒布が行なわれ太政官布告が発せられた。その内容の一部を抜粋すれば、前文略「今般文部省において学制を定め、追々教則も改正し布告に及びにつき自分以後一般の人民（華土族、農工商及び婦女子）必ず邑（村）に不学の戸無く、家に不学の人無からしめん事を期す。人の父兄たるものよろしく此意を体認し、その愛育の情を厚くし、その子弟をして必ず学に従事せしめざるべからざるものなり。高上の学に至っては其人の材能の任すとはいえども幼童の子弟は男女の別なく小学に従事せしめざるものは其父兄の越度たるべきこと」以下省略。とあり、政府は国民に対し義務教育の徹底を図った。

しかし当初、地方では「女子に学問は必要ない」という風潮があり、男子のみが「読み・書き・算盤」を学んでいたと言われている。

## 教育二関スル勅語

明治天皇が山縣有朋内閣総理大臣と芳川顕正文部大臣に対し、教育に関して与えた勅語。以後の大日本帝国において、政府の教育方針を示す文書となった。一般的に教育勅語という。1890年（明治23年）10月30日に発布され、1948年（昭和23年）6月19日に国会の各議院による決議により廃止された。

朕 惟うに 我が皇祖皇宗 國を肇むること宏遠に 徳を樹つること深厚なり  
我が臣民 克く忠に 克く孝に億兆 心を一にして 世世厥の美を濟せるは  
此れ我が國體の精華にして 教育の淵源 亦實に此に存す

## 教育勅語原文

爾 臣民父母に孝に 兄弟に友に 夫婦相和し 朋友相信じ 恭儉己れを持し  
博愛衆に及ぼし 學を修め 業を習い 以って智能を啓發し 徳器を成就し  
進で公益を廣め 世務を開き 常に國憲を重じ 國法に遵い

一旦かんきゆう緩急あれば 義勇公に奉じ 以て天壤無窮の皇運を扶翼ふよくすべし  
是の如きは 獨りちん朕が忠良の臣民たるのみならず 又また以て爾祖先の遺風を  
顯彰けんしょうするに足らん  
斯の道は實に 我が皇祖皇宗の遺訓にして 子孫臣民の俱に遵守すべき所  
之を古今に通じて 謬あやまらず 之を中外に施して悖もとらず  
朕爾臣民と俱に 拳けん々服膺ふくようして 咸みな其徳を一にせんことを庶幾こいねがう  
明治二十三年十月三十日 御名御璽

参考：現代口語訳

私の思い起こすことには、我が皇室の祖先たちが国を御始めになったのは遙か遠き昔のことで、そこに代々御築きになった徳は深く厚きものでした。

我が国民は忠義と孝行を尽くし全国民が心を一にして、世々にわたって立派な行いをしてきたことは、これこそ我が国の優れたところであり、教育の根本もまたその中にあります。

あなたたち国民は、父母に孝行し、兄弟仲良くし、夫婦は仲睦まじく協力しあい、友だちとはお互いに信じ合い、行動は慎み深く、皆に博愛の手を差し伸べ、学問を修め手に職を付け、それによって知能を更に開き起こし、徳と才能を磨き上げ、進んで公共の利益や世間のため人のため尽力し、いつも憲法を重んじ法律に従い、もし非常事態が生じたなら、正義心から勇気を持って公のため奉仕し、それによって永遠に続く皇室の繁栄に尽くしていくべきです。

これらのことは、単にあなた方が忠義心篤く、善良な国民であるというだけでなく、あなた方の祖先の遺した良き伝統を反映していくものでもあります。

このような道は、実に我が皇室の祖先の御遺しになった教訓であり、その子孫と国民が共に守らなければならないことで、昔も今も変わらず、国の内外を問わず間違いのない道です。私は、あなた方国民と共にこの教を胸中に銘記して守り、皆一致して立派な行いをしてゆくことを切に願っています。

明治二十三年十月三十日 天皇の署名 印

明治中期には学校制度の確立と教育思想も明確になって国定教科書時代となり、国家主義や忠孝による国民道徳が重んぜられ、こうした思想は、第二次世界大戦まで続き、忠君愛国精神の統一にいろどられていく。

## 下河内新休学校

明治8年（1875）下河内新休学校を開設し、下河内村普門院において萩野孫三郎を教員として採用して開校した。小学児童の学齢は満六歳から14歳までで、明治11年には生徒が増加し東向寺の門前に校舎を新築移転した。

明治19年簡易本村学校に合併するまでの教員は次の通りである。

坂口昌言・塩木清風・蔵原郁平・倉田以文・内藤静哉・福島福太郎  
・草野延賢・野村萬次郎・加藤久實・岡部勝三郎



下河内学校跡記念碑

## 本村学校

本村学校は、引地に民家を借り小山忠重を教員として採用して開校した。明治11年、生徒数増加により福岡に校舎を新築移転した。

宮田頼学・大野影正・田口清剛・谷崎正方・梅田梅門・倉田以文（第3～8代本村村長）

明治12年、学制が廃止され、教育令が公布される。翌明治13年、文部省にて教科書編集が始まる。明治17年、貧困のため教科書購入が困難となる。

## 簡易本村小学校

明治19年（1886）小学校令「父母後見人等はその学齡児童をして普通教育を得せしむる義務あるものとす」が發布され、尋常科4年（義務制）高等科4年となる。

同年、下河内新休学校と本村学校を合併して天草郡立簡易本村小学校と改称され、庄司原に校舎を新築移転した。明治21年、国歌〈君が代〉が制定される。

## 本村尋常小学校

明治22年（1889）簡易科から尋常科が設置され、本村尋常小学校と改称される。

第1回卒業生は4名である。

明治23年、教育に関する勅語が發布され、尋常科と高等科に分けられる。

（第2回卒業生6名）

明治24年、修身科に教科書が採用される。

明治28年（1895）暴風のため校舎崩壊し、迦葉軒を借りて教場に当てる。

明治29年、新校舎落成（建坪27坪2合）更に義務教育の普及を図るため下河内・平床・鶴に分教場を設置、3年生までが分教場へ通学する。

明治31年、卒業生16名、累計で99名となった。

明治36年（1903）国定教科書制度が成立した。

文部省より実業補習学校規定を制定される。

明治37年、村立本村農業補習学校を併設。第16回卒業生は51名である。

## 本村尋常高等小学校

明治38年、日露戦争の勝利による国力の伸長が背景に在り、小学校教育の充実が叫ばれるようになる。

尋常小学校に高等科（2年）を併設し、本村尋常高等小学校と改称する。

（第17回卒業生45名）

## 本村尋常小学校

明治40年（1907）小学校令が改正され、尋常科が6年（義務教育）に延長され、高等科を2年とした。

明治41年度から本村尋常小学校と改称される。第20回卒業生（6ヶ年卒）10名、累計617名

明治44年、堂の迫に校舎建設のため東向寺の本堂を借りて教室に充てた。

## 大正時代の学校教育

19世紀末から20世紀の初頭にかけて欧米で活発化していた新教育運動が、日本にも輸入され、新しい教育体験の創造を目指そうとする運動が折からの大正デモクラシーの風潮を追い風にして広まったものの、大正3年（1914）第一次世界大戦が勃発し、忠君愛国を誇り勇敢な国民も先進諸国の科学進歩の差異に驚き、我が国の識者もにわかには科学教育振興に覚醒したのであった。

大正6年（1918）高等小学校修身書女子用を発行。大正7年、本村農業公民学校を併設。第30回卒業生55名、累計1083名

## 本村尋常高等小学校

大正9年、本村尋常高等小学校と改称された。第32回卒業生59名、

高等科第1回卒業生11名

大正10年、新編集の尋常小学国史を採用。

大正12年、下河内分教場・鶴分教場廃止した。

大正13年、メートル法の採用により算術教科書変わる

大正14年、教練教授始まる。

## 昭和前期の学校教育

昭和元年、青年訓練所併設（公民学校） 昭和3年（1928）9学級編成となる。

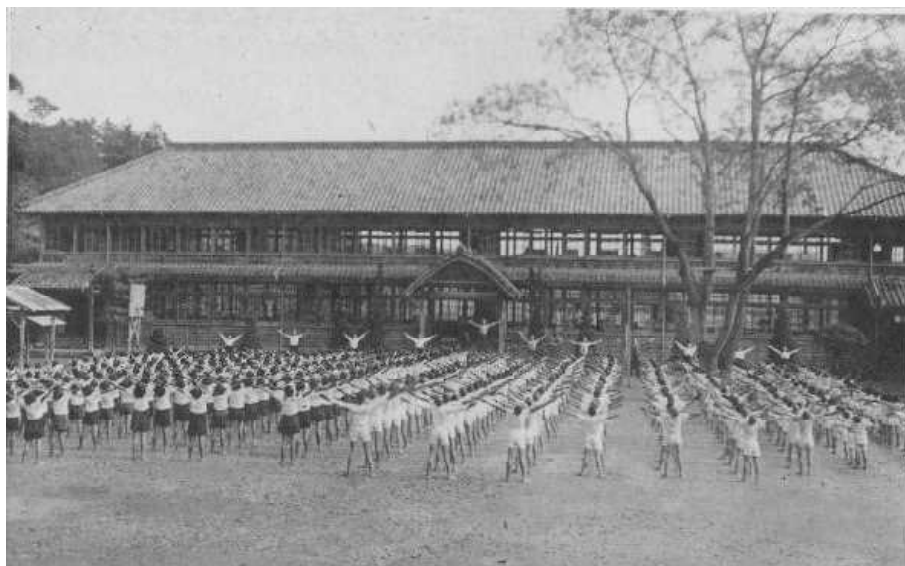
第40回卒業生58名（累計1601名） 高等科第9回卒業生14名。

昭和4年、平床分教場は廃止された。 昭和6年、満州事変が勃発した。

昭和8年、日本は国際連盟を脱退した。



尋常小学国史（昭和15年）



ヨミ  
カタ  
（昭  
和1

6年）

全校体操 昭和14年頃

こうした戦況のなかで、政府は国民の思想対策を強化するため、皇道

教育の統一をはかった。

昭和12年、内閣の諮問機関である「教育審議会官制」が公布され、国民学校・青年学校義務制、師範学校及び幼稚園・中等教育・高等教育・さらに社会教育の教育行政、財政処置に関する答申が出され、教育制度の全面的解決が行なわれた。

昭和14年、文部省より各学校へ、夏期休暇の集団勤労作業実施通達が出される。

昭和15年校歌「鈴木の花」を制定

## 国民学校

昭和16年（1941）ついに太平洋戦争へと突入、戦火の拡大と国内情勢の様相も深刻化し、教育も麻痺状態を呈していった。

同年、国民学校令が公布され、初等科6ケ年、高等科2ケ年、計8ケ年を義務制とし、名称も本村尋常小学校から本村国民学校へと改められた。

教育内容は「皇道の道」を明記し、体練科（体育）に武道が取り入れられ、歴史は国史に改め、数学刷新の統制がなされた。

昭和16年2月11日、紀元節の日に校歌「鈴木の花」を制定し、発表会を行なう。

昭和17年、保護者の組織で、本村教育後援会を設立。母親学級を開設。

昭和18年、学徒兵の入営続く。

昭和20年20月、戦局は厳しさを増し、運動場の北側に横穴式防空壕を起工した。運動場にあった梅檀の木は食料増産のため伐採され、畑として耕し甘藷や南瓜を植えた。沖縄その他の疎開児童約40名が入籍された。

昭和20年8月、戦争は終結し日本は無条件降伏した。敵空襲を想定し、5月より9

月まで本村神社・新休神社・下河内神社・掛道神社・栢原道場(青年クラブ)・鶴道場(香福庵)・福岡道場(聖福庵)・平床消防クラブ道場で分散教育が行なわれた。

10月より本校教育が再開されたが、校舎は軍隊の宿舎に当てられた。平床、宇土地区は分駐教育所として残される。

### 勤労青少年教育の推移

勤労青少年の教育を目的として、定時制の実業補修学校が尋常小学校に併設する形で開校された。入学資格は小学校卒業程度の男女で授業科目は農業の他、修身・国語・算数・習字で修業年限は2年の公民学校である。

### 本村農業補修学校

明治36年(1903)国定教科書制度が成立し、文部省より実業補修学校規定を制定される。これを受け翌明治37年、本村尋常小学校に併設して村立本村農業補習学校を開校した。

### 本村農業公民学校

大正7年、本村尋常小学校に併設して本村農業公民学校を開校した。

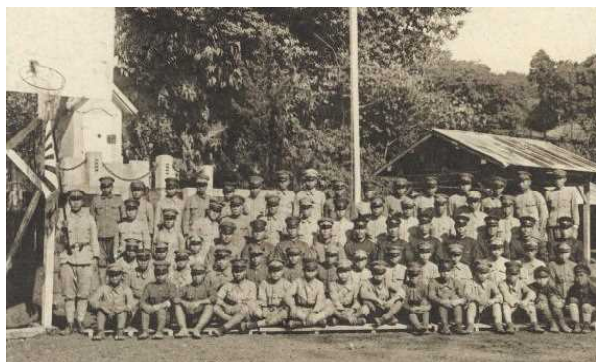
### 本村青年訓練所

昭和元年、本村尋常高等小学校に併設して軍事教練を主とした本村青年訓練所(公民学校)を開校した。

### 本村青年学校

昭和10年(1935)青年学校令によって設立された勤労青年のための中等教育程度の定時制の学校で、昭和14年に義務制(男子のみ)となり、昭和22年(1947)まで存続した。

従来の勤労青年教育機関は、明治中期からの農業補習学校と大正末年発足の青年訓練所とがあったが、両者は施設、教員、対象者において重複する場合も多く、青年学校として統合された。



本村青年学校男子生徒・職員



本村青年学校家政女学部の授業(昭和14年頃)

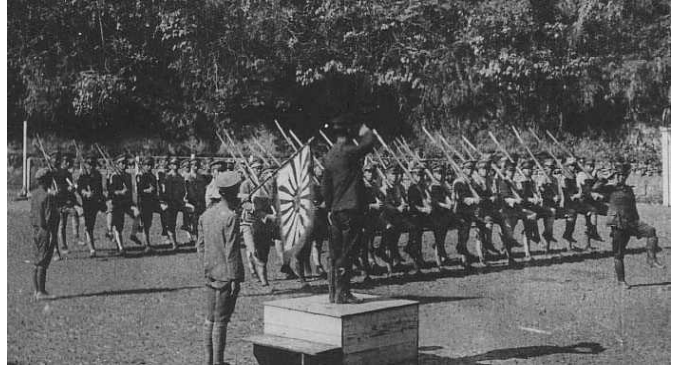
普通科(尋常小学校卒業者。2年)、授業科目は修身・公民・普通学科・職業・体育・女子には別に家事裁縫があった。

本科（普通科修了者、高等小学校卒業生。男子5年、女子3年）授業科目は普通科と同じで体育の代わりに教練科が加わった。

研究科（本科卒）修業年限は男女とも2年、学科は本科と同じ教練科を増やした。専修科には家政女学部（尋常科卒）が置かれ、学科は研究科と同じで、作法・生花を加えた。その教育は「皇国青年ヲ練成スル」ことを本旨とし、修身公民科、普通学科、職業科、教練科（男子）、家事裁縫科（女子）などが課せられたが、男子については軍事的予備教育によって優秀な兵卒を得ることにねらいがあった。

昭和16年、大東亜戦争（太平洋戦争）に突入し、国内は戦時体制となった。

本村青年学校昼学部にて寺領青年道場を設けたが翌年男子は国民学校の家事室を教場とし、女子青年は寺領青年道場を教場とした。昭和18年廃校となる。



青年学校生徒の教練（昭和14年）

## 勤皇農兵隊

農兵隊は、軍事補充や代用目的で庸兵<sup>ようへい</sup>的性格が強く、農民で組織された。

昭和20年、東向寺に菊池勤皇農兵隊天草支部を設置した。

昭和21年、本村少年団を結成。団長は木田政敏校長が兼任した。

## 戦後の学校教育

開戦より四年余にわたる太平洋戦争は、日本国の敗戦で終結し、本土には連合軍が進駐した。これまでの戦時体制下の教育を一掃し、文化国家建設に向け連合軍最高司令部から「日本教育制度に対する管理政策に関する件」をはじめ「四つの覚書」が発せられ、占領教育の基本方針が示された。女子に高等教育機関を開放し、男女共学制実施。

昭和21年、アメリカの教育視察団が来日し、総司令部の勧告等を契機に「教育基本法」「学校教育法」が公布され、学校制度の改革が実施された。

## 本村小学校

昭和22年、学校教育法が公布され、本村立本村小学校が設置された。

昭和23年、「六・三・三制」発足する。教育勅語が失効する。同年、宇土分教場設置認定される



こくご（昭和22年）文部省

ローマ字（昭和23年） あたらしいこくご柳田国男著（昭和25年）

昭和26年、講和条約が調印され、文部省は占領教育を廃止し、日本の教育の自主性を発揮して、教育行政・学校制度・教育課程その他重要な教育的課題に取り組んだ。同

年、「児童憲章」が制定される。

戦後は児童の栄養補給食として肝油ドロップやアメリカの民間団体やユニセフからの寄付で、動物性タンパク質の「脱脂粉乳」という粉ミルクが提供された。

昭和27年に平床分校設置認可された。

## 本町小学校

昭和29年、市制施行により本渡市立本町小学校と改称。

同年5月、電話架設、通話開始

昭和32年、ミルク給食開始

昭和33年、「学習指導要領」を制定。

昭和37年、完全給食実施（単独式）

昭和38年、教科書無措置法が公布される  
鼓笛隊編成

昭和40年、NHK学校放送教育研究発表会開催

昭和41年、子ども銀行全国表彰

昭和42年、特殊学級設置される

昭和44年、学研教育賞

昭和46年、プール完成

昭和47年、ファックス購入

昭和49年、特殊学級、県立天草養護学校へ編入

昭和50年、本町小学校創立百周年記念式典  
本渡市給食センター給食開始

昭和52年、ビデオ放送設備設置

昭和54年、体育館竣工

昭和55年、運動場竣工

昭和57年、宇土分校廃校

昭和58年、特殊学級再設

県書写教育研究発表会開催

昭和60年、平床分校閉校

市緑化推進事業でツツジ植樹

平成元年、県PTA連絡協議会指定

親子二十分読書成果発表会

平成9年、校舎外壁改修工事完了

平成11年、愛知県矢並小学校・則定小学区との交流開始  
本町緑の少年団結成

平成12年 アジア・アフリカ救援米づくり始める

平成13年 県指定教育開発研究推進校発表会開催



本渡市立本町小学校





- 平成14年 図書室地域開放開始  
創造生きる力実践発表会
- 平成15年 本町ふるさとカルタ制作
- 平成16年 本町小PTA、日本PTA全国協議会表彰  
文部科学大臣表彰
- 平成17年 親子ふれあい活動（炭焼き）  
県P連ふれあい読書研究会指定校
- 平成18年 「本町っ子フェスティバル」開催



竹馬大会

## 本村中学校

昭和22年、学校教育法により本村立本村小学校高等科を廃止し、新しく本村中学校が設置された。小学校の平校舎を中学校へ貸与された。

昭和24年、小学校の生徒数増加により手狭となったので、本村中学校は校舎用地に東向寺境内地の譲渡を受け、校舎は佐伊津の天草航空隊兵舎を移築して建てられた。



### 新制本村中学校落成式

- 昭和25年、本村中学校PTA結成 校長住宅新築
- 昭和28年、校舎増築
- 昭和29年、本渡市立本町中学校と改称（市制施行）
- 昭和37年、校歌制定
- 昭和39年、技術科工作室新設
- 昭和40年、子ども郵便局県表彰
- 昭和41年、第二運動場新設
- 昭和42年、特殊学級設置
- 昭和45年、体育館竣工
- 昭和46年、保健体育全国表彰
- 昭和47年、水道ボーリング完成
- 昭和48年、家庭科教室・音楽室増設
- 昭和49年、屋根瓦葺き替え
- 昭和50年、進路指導研究発表
- 昭和53年、体育倉庫・更衣室改修
- 昭和54年、県委嘱「租税教育」研究発表 廊下張り替え
- 昭和62年、特殊学級設置
- 平成2年、文部省研究指定「心身障害児理解推進校」研究発表



農業実習（昭和25年頃）



本村中学校全景（昭和27年頃）

平成 6年、市ボランティア活動普及事業協力校委嘱

平成 6年、県中体連男子ハンドボール3位

平成12年、職場体験学習

熊日学校新聞コンクール優秀賞

平成15年、「生徒心得」改訂

平成15年、鈴木重成公像制作発表

創作音楽構成劇「重成公賛歌」上演

平成15年、郡市英語発表会学校賞受賞

平成17年、グラウンド・テニスコートに散水用水道工事 教室に扇風機取付

平成18年、体育館ステージ幕設置

平成22年、本町中学校は廃校し、本渡中・本町中・佐伊津中が統合して本渡中学校に改称された。



### 本町中学校出身スポーツ選手の顕彰

◇山下恵美子選手（現在、上原姓） 昭和43年3月卒業

1976年、モントリオールオリンピック大会（カナダ）  
女子ハンドボール日本代表として出場。

本町栢原出身、本町中・天草農業高校卒・立石電気。

◇平田和光選手 昭和51年3月卒業

1985年、全日本陸上選手権大会

800メートル優勝（1分53秒30）

本町中学校・天草農業高等学校卒・陸上自衛隊体育学校。

※先輩たちに続け！

先輩たちの業績を讃え、後輩の励みにするために本町中学校の玄関に両選手の写真を掲載して顕彰している。（昭和60年）

現在、両氏は後進の指導にあたっている。



### 県立天草養護学校

昭和49年、亀場小学校旧校舎1棟を借用して開校

小学部6学級28人・中学部3学級20人

昭和49年、小学部棟竣工・本町新休へ移転

昭和50年、管理棟・中学部棟竣工

昭和51年、体育館竣工

昭和54年、プール竣工

昭和58年、五和西中学校と交流教育年次推進始まる

昭和59年、本町小学校と交流教育

昭和60年、文部省「心身障害児適正就学推進研究校」

昭和62年、校歌「ぼくらは友達」制定

平成 2年、高等部新設

平成 6年、創立20周年記念式典

平成 7年、「心身障害児適正就学指導研究会」（主催:文部省）開催



## PTA

昭和21年、第一次米国教育視察団による成人教育に関する勧告で、両親対教師連絡会の強化があげられており、民間情報局（CIA）指導のもとに全国各地の学校に保護者会・後援会などの団体を改組してPTAが結成されるようになった。

本村小学校では、昭和23年から天草郡本村小学PTAを結成し、初代会長に鶴田作雄が就任した。

翌24年には本村中学校でも結成されたが、小・中学校PTAを合併し、毛利文治（村長）が兼任した。村有林（5町6反5畝7歩）を学校林として払い下げPTAが管理し、植林、下払い、枝打ち作業には保護者と小学生上学年、中学校生徒も加わった。

当時の規約によると、「PTAの目的は、子どもが学校と家庭・地域社会の中で健全に成長することを願い、会員の資質を高めるための研修を行う」とある。

会員は会則の趣旨に賛同するものは誰でも加入することができるとし、会長・副会長・書記・会計の他、運営委員として総務・企画・予算・厚生・体育・文化の各委員が選任され、学校長と教頭が顧問として会議に出席していた。

会長は地域の実力者が就任し、PTAの主な活動は学校の運営充実のための寄付や奉仕作業が主体であった。

昭和27年、「日本保母と先生全国協議会」が「日本PTA全国協議会」と改称され、PTAのありかたや活動内容などの研究発表会・PTA役員研修会・講演会などが開催されるようになった。

本町小学校PTAでは昭和56年に会則が改正され、会員は父母と教師で組織し、学年PTAと地区PTAの二本柱で委員会活動に重点を置いた活動に取り組んだ。特に家庭教育の充実を図るため、母親委員会を設立し母親研修会や家庭教育研修会を開催した。

講演会・研修会の実施、社会参加活動・非行防止のための補導活動・学校給食の充実教育環境の整備・PTA新聞の発行と会員への啓発活動など活発な活動を展開しているが、働きに出る父母が多く、子どもの教育は学校任せで、父母が子どもの考え方や実態を把握できず子どもの躰けや家庭教育の低下が指摘されるなど相変わらず課題は山積している。

本町はPTA活動に熱心で、昭和41年・昭和59年には熊本県PTA連合会表彰を受賞し、更に平成16年には優良PTAとしてPTA全国協議会表彰・文部科学大臣表彰の栄誉に輝いている。

### 本町小学校PTAの沿革

昭和23年（1948）PTA結成 鶴田作雄が初代PTA会長に就任

昭和24年 毛利文治が会長に就任(中学校兼任)

昭和25年 学校林（5町6反5畝7歩）設置

昭和28年 井上直三が会長に就任

昭和30年 二宮金次郎像寄贈（鶴田儀太郎）

昭和31年 松元義彦が会長に就任

昭和34年 学校林補植作業（PTA奉仕作業）

昭和37年 松下義雄が会長に就任 校舎解体.整地作業・学校庭園造り

- 昭和39年 校庭排水溝工事・水道工事施工
- 昭和41年 天草PTA連絡協議会表彰・熊本県PTA連合会表彰
- 昭和44年 本町小学校PTA会則を制定
- 昭和45年 VTR設置（PTA寄贈）
- 昭和47年 廣田栄亀が会長に就任・運動場整地作業
- 昭和48年 小鳥小屋設置
- 昭和49年 体育倉庫移転作業
- 昭和50年 平床分校水道工事 創立百周年記念事業・校旗寄贈（広田栄亀）
- 昭和52年 倉田重人が会長に就任
- 昭和53年 5年部キャンプ（鈴木神社境内）・愛校作業
- 昭和54年 鈴木神社祭 子供相撲奉納 樽神輿奉納
- 昭和55年 岡部一十男が会長に就任・青少年海の家 親子キャンプ  
愛校作業・鈴木祭俵神輿奉納 運動場に植樹作業
- 昭和56年 鶴田功が会長に就任 PTA会則改正・親子キャンプ  
PTA新聞「もみじ」創刊・親子愛校作業・交通安全表示板設置  
PTA新聞「もみじ」優秀賞受賞・鈴木祭 俵神輿奉納
- 昭和57年 運動場に植樹作業・茶園植苗作業（PTA奉仕作業）  
本町小校区簡保会創設 会則制定・PTA新聞「もみじ」優秀賞受賞  
PTA活動先進校視察・太陽電地時計寄贈（野島喜高氏）
- 昭和58年 ネットクライム（遊具）設置・校庭樹木剪定 庭池の補修工事  
雨傘200本寄贈（簡保会）・本町小部活動後援会創設 会則制定  
親子キャンプ（竜洞山）・親子愛校作業・鈴木神社祭 俵神輿奉納  
交通安全表示板設置・PTA新聞「もみじ」優秀賞受賞  
挨拶運動表示板設置・菊池養生園視察研修
- 昭和59年 熊本県PTA連合会表彰 藤棚設置（本町育成会寄贈）  
運梯.平行棒.平均台・一輪車・野球ユニフォーム寄贈（簡保会）
- 昭和60年 倉田喜一会長に就任
- 昭和62年 岡部利幸が会長に就任
- 平成 2年 森田雅博が会長に就任
- 平成 3年 森孝が会長に就任
- 平成 5年 高滝良吉が会長に就任
- 平成 7年 坂本安敏が会長に就任
- 平成 9年 野嶋義澄が会長に就任
- 平成11年 坂本誠次が会長に就任 本町緑の少年団結成
- 平成13年 炭焼き窯全面改修
- 平成14年 松下浩が会長に就任
- 平成15年 「本町ふるさとカルタ」発行
- 平成16年 倉田勝雄が会長に就任 熊本県PTA連合会表彰  
日本PTA全国協議会表彰・優良PTA文部科学大臣表彰
- 平成17年 前原に炭窯を移転
- 平成17年 本田稔が会長に就任



## 本町中学校PTAの沿革

- 昭和22年 天草郡本村立本村中学校開校
- 昭和23年 本村中学校後援会発足・校舎移転のため敷地開拓（後援会）
- 昭和24年 後援会解消 本村小・中合同PTA結成・毛利文治が初代会長就任  
身体計測器寄贈（毛利文治）
- 昭和25年 小中共有学校林（本村字鶴・5町6反5畝7歩）を設置
- 昭和26年 本村中学校PTAを独立・鶴田作雄がPTA会長就任  
学校林植林・畜舎建設（岡部林造ほか）  
雨傘寄贈（本村中PTA・野沢直治）
- 昭和27年 学校林下払作業（PTA奉仕作業）
- 昭和28年 雨傘寄贈（本村PTA）・ミシン寄贈（西岡満人）
- 昭和29年 市制施行により本渡市立本町中学校PTAと改称  
学校林を本渡市へ委譲（本渡市学校林設置条例施行）・家鴨舎建設
- 昭和30年 校庭に泉水を設置・洋傘寄贈（本町中PTA）  
天草人形寄贈（広田元一）柱鏡（永野健男）旗竿（倉田秀行）
- 昭和31年 井上直三が会長就任・洋傘寄贈（本町中PTA）
- 昭和32年 森剛康が会長就任・簡易水道設置・学校林下払作業
- 昭和34年 松元義彦が会長就任・自転車小屋建設・学校林下払作業
- 昭和35年 学校林下払作業
- 昭和36年 学校林下払作業
- 昭和37年 野島功が会長就任  
瓦替作業・門柱タイル張り  
本町小中合同運動会
- 昭和39年 学校林下払作業（PTA奉仕作業）
- 昭和40年 保育園 小中合同運動会
- 昭和41年 農具倉庫改築にPTA労力奉仕 花壇造りPTA労力奉仕
- 昭和43年 松浦政一が会長就任
- 昭和45年 学校林下払作業（PTA奉仕作業）
- 昭和46年 立土式記念植樹（楠）・PTA地区懇談会 PTA研修旅行（以後継続）
- 昭和47年 永野圭二が会長就任
- 昭和48年 松下熊雄が会長就任・自転車小屋セメント張り 泉水修理
- 昭和49年 PTA講演会（以後継続）
- 昭和50年 倉田定七が会長に就任
- 昭和52年 森寅信が会長に就任・地区対抗親子バレーボール大会（以後継続）
- 昭和54年 廣田栄亀が会長就任・PTA会則一部改正・本町小部活動後援会創設  
PTA講演会（高木盛義）・交通安全標語柱設置
- 昭和56年 鶴田経久が会長に就任・PTA新聞「樫の木」創刊  
旗竿寄贈（鶴田経久）
- 昭和57年 松下健治が会長に就任・体育大会後父母と教師の懇親会



- 本町小中合同講演会（岡部禪龍）
- 昭和58年 体育館にどん張寄贈（酒井保之）
- 昭和59年 電子タイプライター寄贈（本町中PTA）
- 昭和60年 鶴田功が会長就任・本渡市PTA連絡協議会副会長に就任  
 鶴田功に本渡市行財政改革審議委員を委嘱（本渡市教育委員会）  
 本渡市中央公民館運営審議委員を委嘱（本渡市教育委員会）  
 PTA会則改正・本町中部活動後援会会則改正  
 文化祭バザー（以後継続）・親子映画鑑賞会「山下少年物語」
- 昭和61年 鶴田功が本渡市PTA連絡協議会会長・本渡市学校給食会会長に就任  
 鶴田功が天草PTA連絡協議会会長に就任  
 鶴田功が熊本県PTA連合会理事に就任  
 鶴田功に本渡市学校給食運営委員会副会長を委嘱（本渡市教育委員会）  
 本渡市勤労青少年ホーム運営審議委員を委嘱（市教育委員会）  
 少年を非行から守るパイロット地区協議会 推進指導員を委嘱(県警本部)  
 県PTA新聞コンクール受賞・熊本県PTA連合会表彰・校庭樹木剪
- 昭和63年 野島幸一が会長に就任
- 平成 元年 野島悦生が会長に就任
- 平成 3年 岡部利幸が会長に就任
- 平成 5年 松山研一が会長に就任・小中合同講演会（島 一春）
- 平成 8年 自転車小屋建設
- 平成10年 坂本安敏が会長に就任・親子料理教室開催
- 平成12年 山口有次が会長に就任
- 平成14年 中元博文が会長に就任
- 平成16年 岡部秀樹が会長に就任・性教育親子学習会
- 平成17年 本町ふるさとまつりバザー部門で参加

#### ◇本渡市PTA連絡協議会

本渡市内の小学校（12校）・中学校（8校）の単位PTA会長、並びに学校長で組織され、PTA会員研修会や講演会の開催、学校給食の充実、先進校視察、単位PTA相互の情報交換や連絡提携を行ってる。

昭和60年 鶴田功が副会長に就任

昭和61年～63年 鶴田功が会長に就任（本渡市本町中学校PTA会長）

#### ◇天草PTA連絡協議会

天草郡市103校の単位PTA会長、並びに学校長で組織され、PTA会員研修会や講演会の開催、単位PTA相互の情報交換や熊本県PTA連合会との連絡提携を行ってる。

昭和61年～63年 鶴田功が会長に就任（本町中学校PTA会長）

#### 青少年育成運動

青少年が明日の国家の支えとして心身共に健全に成長することは国民すべての願いであり、青少年自らに科せられた課題でもある。

近年、青少年を取り巻く社会環境は、子どもが被害者となる痛ましい事件や子どもの非行行為が相次ぐなど、親として地域の大人として心が痛む。

地域の教育力や連帯意識がますます低下が危惧されている中で、関係諸団体とともに青少年の健全育成を目指し、幾多の活動と地道な運動を展開し、地域の子どもは地域で守り育てる運動を進めていかなければならない。

そのためには、国民一人ひとりが青少年健全育成に対する理解と認識を深め、自己形成しようとする青少年の自立活動の支援や、青少年を取り巻く社会環境の浄化のために、根強い育成運動を展開していくことが必要である。

昭和四十一年、青少年育成国民会議が結成され、全国に都道府県民会議や市町村民会議が組織された。

青少年育成国民会議では、青少年育成指導者を育成するための二年間の通信教育を実施し「青少年育成アドバイザー」資格の認定証を発行している。

本渡市青少年育成市民会議は、PTA会長を中心に学校長・青少年育成関係諸団体の指導者により構成され、青少年育成運動や実践活動が展開されてきた。

更に青少年育成関係機関及び団体においては、相互に連携を図りながら青少年の健全育成活動を展開している。

#### ◇本渡市青少年育成市民会議

昭和六十一年 鶴田功が理事に就任

平成二年 鶴田功が事務局長に就任

平成十年 鶴田功が副会長に就任

#### ◇熊本県青少年育成アドバイザー連絡協議会

平成九年 鶴田功が会長に就任

#### ◇九州ブロック青少年育成アドバイザー連絡協議会

平成十九年 鶴田功が副会長に就任

平成二十一年～ 鶴田功が会長に就任

#### ◇全日本青少年育成アドバイザー連合会

平成二十一年～ 鶴田功が副会長に就任

#### その他青少年育成関係機関・団体

##### ◇熊本県青少年育成推進指導員（熊本県教育委員会）

昭和六十一年～平成十四年 鶴田功に推進指導員を委嘱

##### ◇熊本県青少年問題協議会（熊本県知事）

平成十一年～十二年 鶴田功に専門委員を委嘱

##### ◇本渡市勤労青少年ホーム運営委員会（本渡市教育委員会）

昭和六十一年～平成十九年 鶴田功に審議委員を委嘱

##### ◇少年補導員・天草地区少年警察ボランティア連絡協議会（天草警察署）

昭和六十三年～ 鶴田功に少年補導員を委嘱

平成二十年～ 鶴田功が監事に就任

##### ◇少年を非行から守るパイロット地区推進協議会（熊本県警察本部）

昭和六十二年 鶴田功に推進指導員を委嘱

平成 元年～平成十六年 鶴田功が会長に就任

◇本渡市青少年国際交流事業会（本渡市教育委員会）

平成八年 鶴田功が会長に就任

◇本渡市青少年タイ国交流事業会（本渡市青少年育成市民会議主催・青年会議所主管）

平成十年 鶴田功が副隊長に就任

◇本渡市体験活動ボランティア活動推進協議会（本渡市教育委員会）

平成十五年～十七年 鶴田功にコーディネーターを委嘱

◇本渡市地域子ども教室推進協議会（本渡市教育委員会）

平成十五年～十七年 鶴田功にコーディネーターを委嘱

◇生涯学習コーディネーター

平成二十四年～ 鶴田功をコーディネーターに認定

◇本町ワクワクドキドキ楽しみ隊

平成一四年、学校でも家庭でもなく心を解放できる第三の空間と、幅広い体験やチャレンジの場を提供したいという思いから、本町保育園園長の津田れい子が中学生に呼びかけ、大人の指導者は中学生の自主性を尊重して、さりげなくサポートするスタンスで中学生ボランティアグループを立ち上げた。

イベントとしての「サマーフェスタin本町」の開催・市民センターや社協、保育園等のボランティア・地域行事への参加がある。

地域の一員として町の将来を考え、中学生なりに楽しみながら、自由な発想で活動している。特に「星空の下の映画祭」は地域住民にも好評である。

中学生や高校生はイベントや地域行事に参加したがる傾向があると思われがちだが、子どもの自主性を尊重して任せることが大切である。あまりにも大人の指示や口出しが多すぎ、積極性をなくしている。「見守る」姿勢こそが主宰者の思わくである。

本渡市青少年育成市民会議主催「青少年育成推進大会」での実践活動発表では、先輩の高校生も一緒に舞台へ登壇し、力強い「ワクワク宣言」に会場からも篤い声援が送られ、地域の人たちからの期待の大きさが感じられた。

## 教育委員会

昭和23年（1948）教育委員会法の制定にともない、昭和27年に全国市町村に教育委員会が設置された。教育行政の組織運営などが決められ、市町村長に属していた教育の権限と事務などが教育委員会へ移った。

本村教育委員会

委員長 倉田六十吉 副委員長 廣田亀彦 委員 山下義造・松山秋生・岡部牛郎

教育長 小島泰平

昭和29年、市制施行により本村教育委員会は解消し本渡市教育委員会が設置された。

昭和31年「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が可決公布された。

教育委員には岡部禅龍が選任された。（31年、32年、36年～39年）

さらに委員長として（39年～40年）選任された。

教育長として金子格三が（47年～51年）選任され重責を果たされた。



## 社会教育

### 公民館

昭和24年社会教育法が制定され、公民館制度が法的に位置づけられた。戦前からの地域施設設置運動と住民の参加システムを生かす形で住民の企画・運営への直接参加が行われるなど、地域における住民の学習権保障の場となっている。

昭和29年、本渡市公民館設置条例に基づき本町公民館が発足した。館長（非常勤）・公民館主事（常勤）・公民館運営審議委員（各種団体長）が運営にあたり、自治公民館との連携・広報啓発活動・地域福祉・社会体育・青少年育成など広範な社会教育活動を展開している。広報紙は昭和44年から「公民館だより」平成5年から「ほむら」を毎月1回定期的に発行している。

特に、青少年育成事業「山学校・川学校」は、各町公民館はもとより全国公民館連合会でも高く評価され、優良公民館として文部科学大臣表彰受賞の栄に輝いた事蹟の引き金ともなっている。



### 公民館長・主事

公民館長	主事
初代 昭和32年 鶴田作雄	昭和32年 田中孝俊
第2代 昭和44年 磨田葭盛	昭和34年 倉田森久
第3代 昭和48年 倉田森久	昭和44年 山崎末雄
第4代 昭和52年 倉田 栄	昭和46年 野島一利
第5代 昭和58年 坂口亀雄	
第6代 昭和62年 廣田栄亀	昭和60年 姪原勝二
第7代 平成 4年 岡部包典	昭和63年 倉田末喜
第8代 平成11年 倉田健一	平成 5年 野嶋義澄
第9代 平成18年 松村 悟	平成 8年 磨田峰男
	平成12年 榎木広一
	平成16年 松下耕二

### 自治公民館

町内の各地区には自治公民館が設置され、地区住民の自治活動の拠点となっている。平成3年に地方自治法が改正され、自治会などの地縁による団体のうち、一定の要件に

該当するものについては、市長の認可があれば「法人格」を取得できるようになり、その団体名義で不動産登記ができるようになった。

本渡市第1号に栞原下区自治公民館が地縁団体法人格を取得し、区有地や公民館などの不動産登記を完了した。続いて道面・下向・栞原上・下掛道・上掛道・鶴・寺領・新休も法人格を取得した。

(栞原・下河内・新休・寺領・福岡・平床・鶴宇土)



### 本町青年団

若者集団として自主的につくられた「若者衆・若衆組・若者連中」の集まりが原型といわれ、明治36年、こうした青年集団は政府の指導の下に青年の修養機関として制度化され、農業補修学校が各地に設立されるようになった。

大正時代には地域ごとに「青年クラブ」として宿泊集会場が設けられた。また、そのころ結成された女子青年団は「処女会」と呼ばれた。

昭和に入り、戦時体制に突入すると若者は戦場へと駆り立てられ、青年団活動は途絶えざるを得なかった。

敗戦後、戦場から故郷へ戻ってきた青年たちは、各地で青年団を再開させた。荒廃した地域を復興させる若者たちの熱意から「本村青年団」が組織され、初代団長に岡部禅龍が就任した。若者のパワーで食料増産に励み、次第に地域は蘇ってきた。折から信エネルギー源として石炭産業が活発になり、構内の支柱に使う坑木の需要が増えて「坑木かたげ」と呼ばれる坑木の搬出に一役かってでた。一方、地域の奉仕作業や演劇活動でも地域を奮い立たせ活性化に貢献した。

昭和30年代から日本は高度経済成長期をむかえ、若者は都市部の貴重な労働力として故郷での農林業から離れざるをえなくなり、青年たちは勤めに出たり県外就職（出稼ぎ）や進学者もいて、青年団活動の継続が困難な状況になり、平成5年には、ついに加入者がなく、45年の歴史を閉じた。

他方、昭和48年、本渡市勤労青少年ホームが設置された。仕事後の余暇活動の場としてクラブ活動や各種講座に参加し、仲間づくりの場として提供された。

しかし、対象青年に加入を募っても趣味のグループやサークル活動が活発なのに対して組織で束縛されることを嫌う若者が増え、加入者は減少している。青年の価値観や思考に変化が見られる。

(社)全国勤労青少年ホーム協議会は平成20年9月30日に解散した。

### 歴代青年団長

昭和20・21年 岡部禅龍	昭和44年 磨田敦男
昭和22年 磨田義光	昭和45年 倉田喜一

昭和23・24年 上原好人	昭和46年 松下政利
昭和25年 井上日出夫	昭和47年 松下定
昭和26年 松下思人	昭和48年 倉田秀樹
昭和27年 岡部包典	昭和49年 平田和敏
昭和27年 森寅信	昭和50年 若林幸敏
昭和28年 岡部益雄	昭和51年 高滝良吉
昭和29年 岡部国雄	昭和52年 田中庄一
昭和30年 山下壮祐	昭和53年 倉田啓治
昭和31・32年 井上方人	昭和54年 松阪政幸
昭和33年 若林一也	昭和55・56年 磨田峰男
昭和34・35年 鶴田経久	昭和57年 松本兼徳
昭和36年 山崎末雄	昭和58年 松元正治
昭和37年 松下行男	昭和59年 松下修治
昭和38年 前田宗儀	昭和60年 松下浩
昭和39年 松下尚充	昭和61年 井上正樹
昭和40年 故鶴田益和	昭和62年 松下由文
昭和41年 金子邦昭	昭和63・平成元年 田中利男
昭和42年 故野島春二	平成 2年・3年 井上誠也
昭和43年 倉田功	平成 4年 松下道明

**本町青年会**

平成9年、新たに「本町青年会」が発足したが、平成15年にはこれも解散した。

平成 9年 前田宗一郎	平成13年 井上健太郎
平成10年・11年 松下秀幸	平成14年 前田賢一
平成12年 多田裕之	

**◇本渡市青年団連絡協議会**

昭和37年 鶴田 経久 (本町青年団)	昭和38 山崎 末雄 (本町青年団)
昭和41 前田 宗儀 //	昭和48・49 松下 定 //
昭和56 松坂 政幸 //	昭和57・58 松下喜久男 //
昭和60 松元 正治 //	昭和61 松下 浩 //

**◇本渡市青年団体連絡会**

昭和49年 前田宗儀 (本町青年団) が会長に就任

**婦人会**

明治34年、軍事援護を目的とした愛国婦人会が創設され、軍人遺族や傷病軍人の救済活動等に当たっている。 日露戦争中に活躍した婦人団体は、愛国婦人会・赤十字篤志看護会・報告婦人会・軍人家族授産婦人会・東洋婦人会・婦人矯風会などの名が記されている。

昭和5年、大日本婦人連合会、昭和7年には大日本国防婦人会が結成された。

婦人会の主な活動は軍人授護が中心で戦時体制下で老人子供と女性だけの留守家族で郷土を守り、出征軍人の慰問袋作りや見送り、遺家族の慰問、勤労奉仕、防空演習など社会奉仕団体として献身的な活動が続いた。

愛国婦人会は鶯色の上着に赤たすきで、国防婦人会は白のエプロンに白たすき、下部の会員たちは同一人であり今日は愛国婦人会の奉仕、明日は国防婦人会の慰問にと明け暮れる毎日でした。



国防婦人会幹部 昭和14年頃

昭和十年、愛国婦人会、国防婦人会、母姉会は統合され主婦会と改称され会長には尋常高等小学校の校長が当り、村内の婦人2名が副会長に選出された。

授業参観の実施や廃品蒐集の益金で児童弁当温め器を設置するなど学校経営の後援に努め、敬老会、生活改善、日用品の共同購入 台所改善、簡易保険掛金徴収、国防献金など精力的な活動が続けられた。

昭和17年には全婦人団体を一本化した大日本婦人会が創立された。これも昭和20年には国民義勇隊女子隊に改編され、終戦と共に解散した。

戦後の婦人会は、婦人の教養を高め、地位向上と会員相互の親睦融和を図る目的で組織され、純然たる民主団体として変容した。主な活動として戦没者遺家族慰問、母親学級の開催、授業参観の奨励、運営資金づくりのための蠅取り紙・石鱈・ミツゲン・卵などの販売、国旗の販売、産児制限学習、新生活運動、改良かまど講習会など、復興にかける婦人たちの力が近代日本の礎となってきた。

昭和29年、市制施行後は本渡市婦人会本町支部として初代の支部会長に毛利久代が就任した。

近年、職業婦人の増加などにより会員数は昭和37年440名、57年以降は200名と減少。

## 歴代婦人会長

昭和30年 毛利久代が初代会長に就任

昭和31年 堀本しず子が会長に就任

昭和32年 井上しのぶが会長に就任

昭和33年 山下久枝が会長に就任

昭和34年 山下久枝が会長に就任

意見発表・舞踊発表

昭和35年 浦田キエが会長に就任

昭和36年 山下久枝が会長に就任

昭和37年 江崎ハルが会長に就任

昭和38年 岡部民子が会長に就任

昭和39年 倉田ミサエが会長に就任

天草大博覧会演芸場で舞踊出場31名



本村婦人会幹部 昭和30年

婦人学級開催（皆勤賞5名）

## 台所改善に卵貯金を始める

昭和40年・昭和41年 田口トヨが会長に就任  
昭和42年 倉田マツエが会長に就任  
昭和43年 佐藤タツ子が会長に就任  
昭和44年 永野マサ子が会長に就任  
昭和45年 松下サワが会長に就任  
昭和46年 岡部カヨノが会長に就任  
昭和47年・48年 田口トヨが会長に就任  
昭和49年 松浦ミズエが会長に就任  
昭和50年 永野マサ子が会長に就任  
昭和51年 佐藤タズ子が会長に就任  
昭和52年 永野キヨカが会長に就任 産業祭バザー（うどん、バラずし）  
昭和53年・54年 松浦ミズエが会長に就任  
昭和55年～平成元年 坂本文歌が会長に就任 産業祭バザー（うどん）  
昭和58年 グループ活動として、ミニバレー  
昭和62年 舞踊（11名）をはじめめる（鈴木祭・文化祭・落成式・盆踊）  
バレーボール・生花・お茶  
平成 2年～ 9年 山下チツ子が会長に就任  
平成 3年 ふるさと祭りバザー（うどん、ちまき）  
平成 6年 EM菌ボカシ使用の推進  
平成10年～12年 野嶋房子が会長に就任

その他、町内の各種事業に参画し、青少年の健全育成やボランティア活動など社会に働きかけ、婦人の力が地域活性化の原動力となってきたが、近年社会環境の変化により加入者が激減、平成12年度末を以て婦人会は解散し、新しく「婦人学級」と称して自己研鑽や地域のため奉仕活動を行っている。

## 老人会

昭和37年、寺領・鶴で60歳以上の老人により老人会が発足し、翌年、平床・新休・下河内・福岡・宇土の各地区にそれぞれ結成された。

昭和38年5月には老人福祉の向上と会員相互の親睦融和を目的として本町長寿会連合会（会員396名）が設立され、設立総会で会費の決定（年1人10円）井上与吉ほか役員を選出した。7月には本渡市老人会に加入し、8月から市補助金交付を受けた。

### 重なる事項

昭和38年 井上与吉が初代会長に就任  
昭和39年 井上与吉が会長に就任 老人大学に出席（本渡南小学校）  
老人福祉法講習会（婦人会館） 鈴木神社清掃奉仕  
昭和41年 年会費を20円とする  
昭和42年 松浦友彦が会長に就任  
昭和43年 会員数344名（下河内64・新休51・寺領60・福岡38  
平床50・鶴50・宇土30）

昭和44年 市老人センター建設基金のため募金活動  
昭和45年 松浦友彦が会長に就任  
年会費を50円とする。老人大学（毎月1回開催）  
昭和46年度 市老人センター落成・天草郡市老人スポーツ大会開催  
東向寺清掃作業奉仕（参加者140名）・盆栽愛好会発足（会長、下田孫作）  
年会費70円とする・市老連社会奉仕団が結成・美化奉仕本町支部誕生  
昭和47年 鶴田作雄が会長に就任  
昭和49年 天草郡市体育大会開催・天草郡市ゲートボール大会開催  
昭和50年 年会費百円とする・慰安旅行（別府方面、二泊三日）  
昭和51年 鶴田作雄が会長に就任 四半的講習会開催  
市老人の森記念碑除幕式に会長出席・九州ブロック老人会研修会開催会長出席  
天皇即位50年記念慶祝大会  
昭和52年 鶴田作雄が市老連副会長に就任  
昭和53年 本町老連15周年記念大会開催・慰安旅行（鹿児島方面）  
昭和54年 慰安旅行（湯の鶴方面）・民謡研修会（老人センター）  
昭和55年 鶴田作雄が市老連会長に就任  
昭和57年 慰安旅行（沖縄、2泊3日）・老人の主張入選作品発表  
昭和58年59年 鶴田作雄が会長に就任  
昭和60年 白寿会旅行四国全周 出雲大社旅行  
昭和61年 金子格三が会長に就任 白寿会旅行（伊勢・高野山・南紀全周）  
天皇在位60年記念奉祝旗行列・白寿会旅行（東北全周）  
市老連主催単老指導者研修会開催  
昭和62年度 白寿会旅行（立山黒部アルペンルート・奥飛騨・高山）  
慰安旅行（鹿児島・宮崎）・白寿会旅行（湯田温泉・萩・津和野・秋吉台）  
白寿会旅行（五家荘・椎葉）  
昭和63年度 倉田栄が会長に就任 白寿会旅行（高千穂）  
平成元年度 会員数521（下河内129・新休77・寺領87・福岡66  
平床69 鶴50・宇土43）・白寿会旅行（指宿・宮の城温泉・知覧）  
平成 2年 倉田栄が会長に就任 宇土老人会脱会・白寿会旅行（唐津、2泊3日）  
グランドゴルフ講習会  
平成3年 会員数481（加入率71.1%）・白寿会旅行（富士山・東京）  
ゴミ問題研修会・町づくり研修・ 婦人会との交流・本町幼稚園との交流  
本町中学校との交流・老人会幹部研修（植木町）・老人大学研修旅行（牛深）  
島原地区被災者義援金（本町老連151,850円贈る）  
平成4年 松下正由が会長に就任 白寿会旅行（豊浦海岸・西長門・青海島周遊）  
研修会事例発表  
平成5年 松下正由が会長に就任  
平成6年 羽山六郎が会長に就任  
平成8年～11年 廣田栄亀が会長に就任  
平成8年 高齢者交通安全協議会 単車の部出場

平成9年 郡市スポーツ大会アトラクションに30名出場

町老連研修旅行（福岡・篠栗88ヶ所）

平成10年 町老連研修旅行（大分県別府）

平成11年 国民体育大会デモスポ大会に市代表で出場

平成12年～14年 岡部包典が会長に就任

平成12年 研修旅行（長崎西海楽園地）

平成13年 市民講座（60名参加）・町老連研修旅行（島原）

寺領老人会・福岡老人会が地域美化活動功勞で本渡市教育委員会が表彰

平成14年 町老連研修旅行（五木・人吉）・「いたてみゅうかい」に百数名参加

平成15年～17年 井上幸夫が会長に就任

平成15年 本渡市老連創立40周年記念式典・町老連研修旅行（高千穂・阿蘇）

鈴木重成公没後350年記念行事へ参加

平成16年 故岡部禅龍杯グランドゴルフ大会・町老連研修旅行（長崎・雲仙）

平成17年 岡部禅龍東堂杯ゲートボール・東堂杯グランドゴルフ大会

町老連研修旅行（玉名）

#### ◇本渡市老人会連合会

昭和54年 鶴田作雄が副会長に就任

昭和55年 鶴田作雄が会長に就任

#### 本町育青会

昭和52年、歴代の青年団長により、青年団の育成強化・青少年育成・地域美化活動を目的として本町育青会が結成され、岡部禅龍氏が初代会長に就任した。

発足以来、青年団活動への助成・広域農道の桜並木植樹と管理・児童生徒に住みよい町づくりの標語を募集し標柱を設置・町内の史跡調査・広瀬川の水質調査などの活動を行っている。また、本町公民館ステージの緞帳は、同会の寄贈である。

歴代の会長は次のとおり。

初代：岡部禅龍	2代：磨田義光	3代：岡部包典	4代：森 寅信
5代：岡部益雄	6代：井上方人	7代：鶴田経久	8代：山崎末雄
9代：松下行男			

#### 青壮年会

明るく住みよい地域づくりを目指して、地域の中堅たる青壮年が進んで自治行政を支援しようと各地に「青少年会」が結成された。

地域環境の美化活動として、河川や県道・公共地の清掃など和やかな雰囲気での活動を展開している。

各地区の初代会長は次の通りである。

寺 領 昭和51年 倉田義信	横久保 昭和56年 松村真澄
福 岡 昭和52年 松下行男	新 休 昭和57年 岡部有恒
柵の原 昭和53年 鶴田 功	平 床 昭和58年 松下義重
下河内 昭和55年 森 虎信	鶴 昭和59年 若林一也

## 本町青壮年連絡協議会

昭和63年、全地区に青壮年会が結成されたのを機に、「本町青壮年連絡協議会」が結成され、鶴田功が初代会長に就任した。中央公民館長坂本繁義先生を講師に招き「青壮年活動と行政自治会の関わり方」などについて研修した。本渡市の水甕であり我が本町が誇る広瀬川の清掃に取り組んだ。

平成6年、後任として野島美智男が就任した。12月には、一本松のイルミネーションで夜景を彩っている。

## 栢の原青壮年会

例会には、本渡市より各課の課長を講師に招き、行政の仕組みについて学習会を実施した。上、下水道の敷設・側溝の敷設・市道の舗装・自治公民館建設などを陳情し、そのいくつかは解決することができた。

町内体育大会では応援団を結成し、応援旗を作成したり応援歌を作った。

### 栢の原 応援歌

作詞 鶴田 功 曲【歩兵の本領】

- 1 秋空高く 澄み渡り  
集う我らの 精鋭が  
今日こそ 健脚競うとき  
闘魂燃やす 我が選手  
フレーフレー 栢の原
- 2 勝利の旗を 掲げんと  
百戦錬磨の 技・力  
いざ決戦に 勇み立つ  
聞け！ この歓喜 我が選手  
フレーフレー 栢の原
- 3 凱歌轟き 意気盛ん  
闘志漲る 熱戦に  
健闘称えん 丈夫の  
団結強し 我が選手  
フレーフレー 栢の原

### 寺領 応援歌

- 1 白雲なびく 秋空に  
熱血たぎる 若人が  
熱烈の意気 高らかに  
見よ 精鋭の集うところ  
炎と強気 この斗志  
寺領健児に 勝利あれ



2 竜虎相打つ 熱戦に  
 団結固き 健斗に  
 轟き渡る この凱歌  
 向うところ 敵はなく  
 見よや さんたる月桂冠  
 寺領健児に 栄えあれ  
 フレーフレー寺領

### 本町まちづくり実行委員会

平成14年、本渡市の地域活性化事業に呼応して「本町まちづくり実行委員会」が発足した。森田雅博を初代会長に選んだ。

花いっぱい運動・演劇公演・青少年育成活動として豊田市との交流や「富岡往還鈴木三公の足跡を訪ねて」などユニークな活動を展開している。

ホームページ「いやしの里ほんまちホームページ天草市本町地区振興会」を開設している。<http://amakusa-honmachi.cliff.jp/>

平成18年からは山口有次が会長を継いでいる。「広報ほんど」に会の活動状況が紹介された。